

今週のメニュー

■トピックス

◇産学連携プロジェクト～カンボウプラス株式会社×文化ファッション大学院大学～

■随想

◇エスワティニ王国旅行記（9）エスワティニ王国あれこれ（その1）

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■トピックス

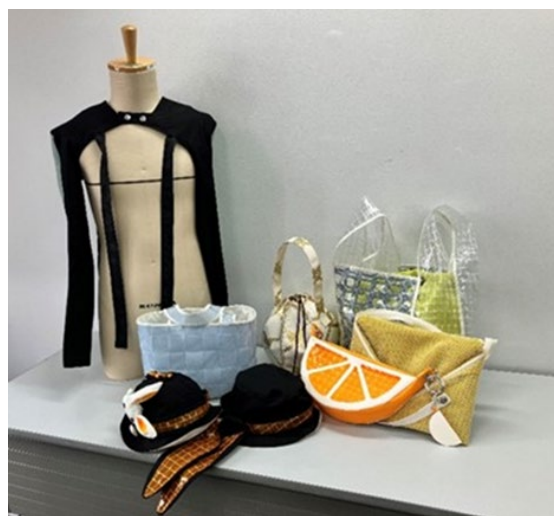
◇産学連携プロジェクト～カンボウプラス株式会社×文化ファッション大学院大学～

アップサイクルプロジェクト「カンボウプラスとSDGs」は、カンボウプラス株式会社と文化ファッション大学院大学（東京都新宿、以下、BFGU）の産学連携プロジェクト。コンセプトは『素材本来の機能性を活かしたまま新しく生まれ変わらせる。廃材に新たな命を。生活に彩りを』で、BFGU 1、2年生にそれぞれのテーマを決めて作品を作成してもらい、発表しました。本稿ではこの産学連携プロジェクトについて紹介します。

BFGUは2006年に設立された日本初のファッション専門職大学院で、専門的な職業能力を持った実務家の養成に特化した教育、理論と実務の両面にわたる能力を培うことを目的としています。

一方、カンボウプラス(株)は、1939年設立、ターポリンや帆布をはじめとする機能性塩ビ素材の製造会社です。近年、若手を中心にブランド「DIGREAL」（ディグリアル）を立ち上げ、難燃性や防水性などの機能性を活かした商品企画を進める中、製造プロセスで発生する端材がやむなく廃棄されていることに問題を感じ、これを有効活用したいという強い思いから、昨年、デザイナー探しをBFGUさんに相談したのがきっかけで、今回のプロジェクトが立ち上がりました。

プロジェクトに先立って、カンボウプラス(株)による講義を開催（生地の特徴をレクチャー）。1年生は『商品化を目的とした小物』をテーマに、2年生は『WORK WEAR』をテーマに機能性を活かした作品を作成しました（写真①＝1年生の作品、写真②＝2年生の作品）。



写真① 1年生の作品『商品化を目的とした小物』



写真② 2年生の作品『WORK WEAR』/作業服

本稿では詳細の説明は割愛しますが、どの作品もとても個性的で素材の機能性を活かした斬新なアイデアに満ち溢れています。

以下、参加された学生さんの声を紹介します。

【1年生】

『私たちはターポリンを使ったハンドバッグを制作しました。提供された素材は今まで扱ったことがない質感ばかり。硬くて分厚い塩ビ系素材は、縫製の難しさがある反面、形を作りやすいという長所もあって、色々なアイデアが浮かびました。』



写真③ 自分の作った作品と共に(1年生)

【2年生「WORK WEAR」作業服】

『提供いただいた塩ビ系素材は外側からの曲げや折りに強いので、仕事着に非常に向いている印象です。良質で丈夫な服を通して、「ものを長く大事に使おう」と服を着る人の意識が変わることこそが、サステナブルな暮らしにつながると感じました。』



写真④ 自分の作った作品／雨天用作業服と共に(2年生)

今回のように商品のデザインを通して、具体的な課題解決を提案できたことは学生にとって、大変貴重な体験（学びの機会）になったのではないのでしょうか？

また、作品を作成中は、学生たちからカンボウプラス(株)に、いろいろな機能や意匠性の塩ビ素材（生地）を求められたとのこと。例えば、防炎性の生地を使って溶接工の作業服を作るなど、作品の中には今後、特許申請するものもあるそうです。これらも提供された機能性塩ビ素材に学生たちのアイデア・創意工夫、そして、作りこむ努力など、良い感じの相乗効果が良い結果に結びついたと思います。

カンボウプラス(株)では、今回の作品をプロトタイプとして、アップサイクル製品の上市を検討するとのこと。その意味では、プロジェクトは始まったばかり。今後の更なる取組みに期待したいと思います（<https://shop.kanbo.co.jp/>）。

ターポリンは耐水性・耐久性があり、ウェルダ加工ができる便利な素材ですが、リサイクルの難しい複合素材です。だからこそ、素材をそのまま利用するアップサイクルの取組みが大切だと考えます。今後、日々の生活の中でこういった製品に出会う日を楽しみにしていきたいと思います。

◇エスワティニ王国旅行記（9）エスワティニ王国あれこれ（その1）

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

【住所】

エスワティニ王国、都市部を除き、人が点在して住んでいます。大規模農場になると、広い敷地の中に、ポツンぽつんと家が立っていますが、隣の家まで数キロ離れていることも。このため、住所は「○○農場内」となっていますが、訪問しようとする、これでは到着できません。今回も訪問先の住所を尋ねると、「南緯 ○○度 ○○分、西経 ××度 ××分」と緯度と経度が送られてきました。以前なら、こんな数字を送られてもどうやって行けばいいのかと途方に困りましたが、最近は、カーナビやスマートフォンの地図が緯度と経度に対応しています。このため、この数字を入力すると、ちゃんと GPS のシグナルを基に、目的地まで誘導してくれます。郊外では人通りも、通行する車両もほとんどないので、カーナビやスマートフォンがなければ、道を尋ねることもできず、初めての訪問では目的に辿り着けません。

【国境】

南アフリカ共和国とモザンビーク共和国に接しているエスワティニ王国、当然、陸路での出入国が可能です。国境、ヨーロッパなどは24時間オープンしているのが普通ですが、エスワティニ王国の国境、一部を除き、日中しか開いていません。このため、国境が閉まる時間前になると、長距離トラックなどは開いている時間に通過しないと一晩、国境の手前で泊まることになるため、いきなり速度を上げて国境に向け突っ走ります。国境周辺では、国境が閉まる直前の時間は、危険なので車の運転や外出を控える人がいるほどです。

【制限速度】

国境が閉まる時間かどうかには拘わらず、エスワティニ王国の人はスピード狂の人が多くいます。穴だらけの道を、制限速度+αの速度で走っていても、確実に追い越されます。今日は、警察車両が私の車の後ろにつきました。さすがにこれはまずいと、制限速度で走っていたら、ヘッドライトをピカピカとパッシングして、もっと早く走れと注意されました (>_<) 制限速度+20Km(時速 140Km ほど) まで速度を上げたのですが、それでも遅かったらしく、いきなり追い越しを掛けられました。しかも、その警察車両の後ろを、3台の一般車両も続いて追い越していきました。

この国の巡航速度って、時速何キロくらいなのでしょう？

【テレビ】

生活水準が低いエスワティニ王国、テレビを所有していない家庭も沢山あります。情報取得の中心手段はラジオかと思ったら、スマートフォンでした。

テレビは買えないけれど、スマートフォンは買う。

確かに、スマートフォンがあれば、テレビはいらないのかもしれませんが。

テレビがある家でも、まだ、ブラウン管式のテレビが現役です。

当然、放送もアナログ放送が残っています。

日本のようにテレビ放送をデジタル化するので、国中のテレビの買換えが必要なことになると、国民の大半がテレビの買換えを行う資金を持っていないため、テレビが見られなくなる事態となります。

ただ、世界中で携帯電話の需要が高まり、テレビのアナログ放送が使用していた周波数を携帯電話に割り当てることが国際協定で決定しているので、何れはテレビのアナログ放送は廃止されることとなります。

その時、エスワティニ王国のテレビ放送はどうなるのでしょうか？

【新聞】

スマートフォンが浸透しているため、新聞社はなくなりつつあるそうです。

もともと、新聞を購入する人が少ない、家が分散して建てられているので、配達がり立っていないので、これまでも新聞は街に出た時に買うものだったそうです。

それがスマートフォンでリアルタイムにニュースや情報が取得できるので、新聞の役目は無くなりつつあるそうです。

しかし、皆さん、どうやってスマートフォンの購入費や通信代を捻出しているのか、不思議です。

(続く)

次回は、(10) (終) エスワティニ王国あれこれ (その2) です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <https://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp
